

22 医療社会福祉部

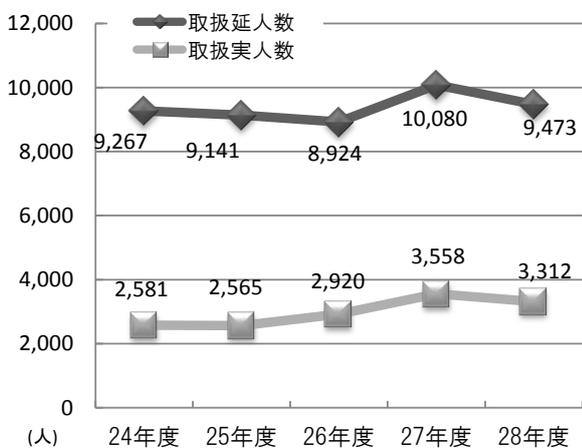


医療社会福祉部では、9名のソーシャルワーカーが、患者さんとその家族の抱える療養中の様々な課題への相談援助を行うとともに、地域医療・総合相談センター（29年度より医療支援センターに改編）の一員として、退院支援や院内・院外との地域連携業務にも従事している。

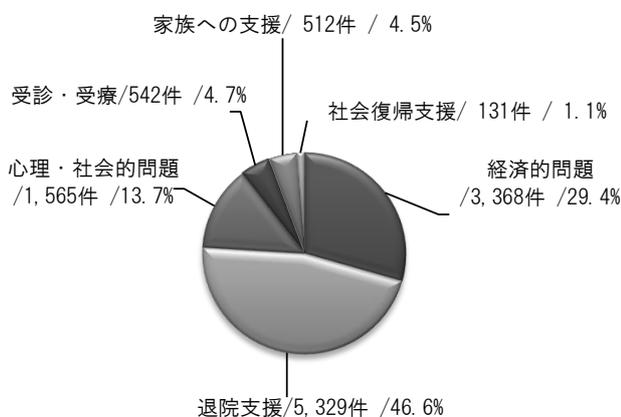
相談内容は、経済的問題、就学や就労に関わる社会復帰支援、家族の介護問題や家族関係等の支援、転院や在宅サービス調整等の退院支援、緩和ケア病院等への受診・受療援助等、多岐にわたる。また、高齢単身者や高齢者夫婦など社会的なサポートが十分ではない患者さんや家族へ支援体制をコーディネートすることも多く、その他DVや児童虐待など迅速に関係機関と連携しなければならないことも多い。

28年度の診療科別依頼延件数は、脳神経外科、救命救急センター、血液内科、小児科/NICU等、既にソーシャルワーカーが担当制を取っている診療科が多い（22-3）。援助内容の構成比率は、退院支援、経済的問題、心理・社会的問題が9割以上を占め、とくに退院支援の比率が高い（22-2）。今後も退院支援の割合が高率を示すと考えられるが、これは27年度から各病棟で入院早期に退院困難な要因を有する患者のスクリーニングを行い、確実に退院支援部門が介入できるようなシステムを導入したことが影響している。特に救命救急センターやSCU病棟においては、ソーシャルワーカーが中心にスクリーニングを実施し、早期介入の退院支援体制を強化したことが根付き始めたと考えられる。今後、当院の機能を十分に考慮し、多職種と協働し、退院支援体制を強めることで、患者さんと家族が安心して地域生活に復帰できるように努めたい。また、認知症疾患医療センター、がん相談支援センターに専従スタッフを配置し、今後増加するニーズに対応できるように尚一層努める。

22-1 取扱人数の年度別推移



22-2 28年度援助内容の構成比率(合計11,447件)



22-3 28年度診療科別依頼延件数

区分	件数	構成比率 (%)	区分	件数	構成比率 (%)
循環器内科	453	4.8	整形外科	527	5.6
血液内科	1,115	11.8	形成外科	15	0.2
リウマチ・膠原病内科	145	1.5	脳神経外科	1,764	18.6
糖尿病・内分泌・代謝内科	91	1.0	皮膚科	31	0.3
肝・胆・膵内科	314	3.3	泌尿器科	381	4.0
消化管内科	222	2.3	産科婦人科	238	2.5
炎症性腸疾患内科	188	2.0	眼科	122	1.3
呼吸器内科	492	5.2	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	186	2.0
神経内科	123	1.3	放射線科	5	0.05
腎・透析内科	115	1.2	麻酔科・疼痛制御科		
総合内科			歯科口腔外科	33	0.3
小児科 / N I C U	629	6.6	救命救急センター	1,412	14.9
外科	654	6.9	精神科神経科	36	0.4
心臓血管外科	113	1.2	医療社会福祉部	5	0.05
呼吸器外科	64	0.7	合計	9,473	100.0